



地方のインターネットと 地域の現状について

地域ISPの現状と役割について

群馬インターネット(株)
福田 晃



地方のインターネットについて

- 地方でのインターネットの推進役は、地方自治体と地域ISP。
- 地方自治体(都道府県と市町村の情報政策課)
 - ・数年前までは地方のIT推進の中心。
自治体主導のパソコン教室が全国に出現。
 - ・最近の関心事は市町村の合併問題。財源難もあり官主導のIT普及は停滞。
 - ・最大の課題は、ほぼ2年ごとに情報政策課の担当者が代わる事。
- 地域ISP (Internet Service Provider)
 - ・地域ISPの特色は地方にインターネットの技術屋がいる事。
地域でのお祭り、各種イベント、中小企業への活用支援、教育等々。
大手ISPとの差別化要素はF2F(Face to Face)。地元に着しながら情報を提供。
 - ・地域ISPはインターネットの便利屋。
ISP、ASP、iDC、コンテンツ作成、ネットワーク構築、パソコン教室、等々。何でもやる。



地域ISPの現状

- **各地域での地域ISPの寡占化が進行**
 - ・4～5年前は、各都道府県に20社～40社程の地域ISPが存在した。
 - ・現在は、どの地域も(個人経営のISPを除けば)2～3社に絞られ、寡占化が進んでいる。
 - ・地方自治体が運営する地域ISPは、数年前にほぼ消滅。
- **全国規模のある事業者による強力な販売攻勢**
 - ・ある大手事業者のモデムの無料配布と(無差別な)電話勧誘。
 - ・強力な販売攻勢は、ISPの大小を問わず影響を受けているが、経営体質の弱い中小の地域ISPが最も影響を受け、大半が淘汰された。
 - ・ただ、現在生き残っている地域ISPはとても元気。地域密着で生き残る。
- **地方のインターネット業界も成長期から安定期へ**
 - ・自由競争と自然淘汰は、どの業界も同じ。
 - ・銀行やスーパーマーケットといった業界も、全国区の手続き事業者と地方の中小事業者が共存している。特徴のない中堅事業者や経営体質の弱い事業者が消えてゆくのは、どの業界も同じ。
 - ・インターネット業界も成長期から安定期に入り、社会的にも認知され、成熟してきたような印象を持つ。

3

地域ISPの連携

- **1997年 日本地域プロバイダー協会(略称:JLAPA)設立。**

全国の地域ISPが80社程集まった。旧郵政省や警察庁に地域ISPの立場を主張する。
- **1999年 (社)日本インターネットプロバイダー協会(略称:JAIPA)設立。**

JLAPAは発展的解消し、JAIPAの中で地域ISP部会を作る。毎月の会合と年に3～4回、全国を廻りながら「地域ISPの集い」をおこなっている。この5年間で18回を数える。
2000年12月に社団法人となる。
- **2002年 地域IXのためのNPO法人「地域間高速ネットワーク機構」設立。**

NTTのフレッツADSLの出現で、ラストワンマイルは高速になったが、これに対する地域ISPのバックボーンの脆弱性が表面化。これに対応すべく地域ISP数社が集まって、共同で高速バックボーンの導入と価格交渉を開始。また、共同購入のための法人化が必要となった。
地域ISPが20社集まって、地域IXを構築するためのNPO法人を作った。内閣府のNPO法人で、全国の都道府県で支店を作る事ができる。
現在約30社程が加盟し、毎月渋谷に集まっているが、出席率は非常に高い。

4



地域IXについて

- **地域ISPが集まって、地域IXの構築と運営のためのNPO法人を作った**
NPOによる法人化の目的は、専用回線とインターネットのトランジットの共同購入。
地域ISPに対し、AS番号やIPアドレスの獲得、BGP設定のための支援等々をおこなっている。
NTT東日本の丸の内局舎で、トランジットの共同購入をおこなっている。
- **でも、日本で地域IXは必要な？！**
日本の広さは、米国のカリフォルニア州にすっぽり入る大きさ。キャリアの人達は、自社の全国のアクセスポイントが地域IXだと思っている。
「地域IXを作った場合、大手ISPが利用するか」という議論が昔からある。しかし、必要であればとくに地域IXを作っている。大手ISPは、ダイヤルアップは全国ワンナンバーの0570番に移行。フレッツADSL等々は、県間接続で東京に持ってきている。
今年6月の「地域ISPの集い in 大垣」で、総務省の担当とも議論した。
- **日本の地域IXて何なの。**
地方の弱者(情報を含めた)同士が、協力し合い助け合う、精神的な繋がりのようなもの。
東京と地方との情報による地域間格差を補うもの。
- **地域ISP (Internet Service Provider) は Internet Provider から Service Provider へ**
NPO法人発足のきっかけとなったバックボーン等のインフラ問題は解決し、最近ではサービス(ソフト)の共同購入という、協同組合的要素が拡大。IP電話やブログ等を地域ISPがまとめて購入。東京のサービス提供事業者にしても、NPO法人が責任を持って資金回収をするので安心して取引ができる。

5



地方のインターネットの今後と課題

- **地方のインターネットを活性化させるために、地域ISPの役割はますます重要。**
・地域ISPが巧く育った地域とそうでないところと格差がでている。
・地域ISPがないところは、インターネットに対して無関心。地域の経済活性化に少なからず影響。
- **本格的な地域のポータルサイトの構築を**
・地方で本格的に使えるポータルサイトが無い。
・新聞社には、全国紙と地方紙があるように、YahooやGoo、infoseek等々を全国紙とすれば、地方紙としての地域ポータルサイトの構築が求められている。
・ブログの出現は、当初のlogとしての使い方ではなく、Webの作成や更新の簡単さが注目を浴びている。
・ワープロとデジカメが使えれば誰でもWebが使える。Web作成の底辺が非常に広がっている。
・地方のWebサイトを細かく拾ってゆく事で、NTTの電話帳以上の役割りを果たすと思われる。

6